

私大に重きおく高等教育政策の確立



佐藤東洋士氏



福井直敬氏



小原芳明氏



中山峰男氏



小出秀文氏



谷岡一郎氏

●出席者（順不同）

▽福井直敬氏 日本私立大学協会会長

武蔵野音楽大学理事長・学長

▽佐藤東洋士氏 日本私立大学協会副会長

桜美林大学理事長・学長

▽中山峰男氏 日本私立大学協会副会長

崇城大学理事長・学長

▽小原芳明氏 日本私立大学協会常務理事

玉川大学理事長・学長

▽谷岡一郎氏 日本私立大学協会常務理事

大阪商業大学理事長・学長

▽小出秀文氏 同会 日本私立大学協会

常務理事・事務局長

第4次産業革命に 向けて

中山 あけましておめでとうござい
ます。

熊本は3年半前に震災がございました
が、その復旧工事がほとんどの大学で昨年
終了し、それぞれ改築校舎等の竣工式が行
われましたので、災害からの復興が一段落
した年だったと認識しております。

そして昨年は新天皇が御即位され、令和
の御代が始まりました。私は、これからの
時代は第4次産業革命といわれるように大
変革の時代を迎えることになると思いま
す。まさに令和の御代は新時代の始まりに
なるでしょう。そこで本学では、情報学部
に未来情報コースを設置し、未来の情報化
社会に対応できる人材育成を行う予定であ
り、この4月にそのコースを設置します。
また、同時に全ての学科でAIを中心とし
た新情報のリテラシー教育を開始します。
未来社会は間違いなく若き人たちが創成し
ていくことになると思います。

それから、中央教育審議会を始め文部科
学省から高等教育に関する諸施策が出され
てきましたが、それを拝見する限り、残念
ながら私学からの切実な願いが無視され続
けているように感じます。そこには私学の
現場を調査することなく机上論的な政策に
なってしまう印象があります。

教育の本質は、制度ではなく、人を育成
するための教育そのものであります。私学
は、それぞれの学校法人が長い間苦勞して
その本質的な教育の伝統を構築してきまし
た。学生は全て異なった個性を持っていま
す。その個性を大切にしながら学生それぞ
れに合った個の教育を行ってきたのです。

教育は事務にあらず、感性なのでありま
す。私学は、建学の精神のもとで、そうい
った人材育成をやってきたと認識しており
ます。そのような意味で制度を変えれば良
くなるのか、どうにかできるということに
はならないと思います。逆に、私学の良さ
がだんだん毀損されていくことを心配して
いるのです。昨年1年間をふりかえると、
若干残念な思いが残ります。



中山峰男氏

納税者の意見は 反映されているのか

中山 先生方がおっしゃったとおりです。私学の独自性を堅持していかないと、学問の自由そのものが脅かされることになります。

国立大学は、国立大学法人制度をつくってから、おかしくなってきたと思うています。国立大学が法人になる前は、地元国立大学の経理担当者などが、本学に熱心に法人事務について聞きに来ていました。しかし、国立大学法人制度ができると、今度は、国立大学法人に私学の学校法人を当てはめようという動きがあるような気がします。



中山峰男氏

国立大学は、例えば熊本で震災があったときも文部科学省の施設課が対応しました。施設課が財務省と予算折衝したのです。私学とは立場が違います。であるのに、国立大学の法人改革が一段落したら、今度は私学をそれに合わせようとしてきているように思います。私は、それはとてもないことだと思います。

また、国立大学の多くの教員は、教育の質の向上には関心がないように見えます。ステップアップするためには研究成果を出すことが最優先されますので、学生のほうは見えていないし、教育は二の次になっているのではないかと思います。

ところが、私学は、学生が来ないと経営

が成り立たちませんので、常に成果を出していかなければなりません。ですから、入学生一人ひとりを手厚く教育し、社会からの信用をも勝ち得ながら今日を築いてきたと思います。だから教育面において、国立と私立では立場や考え方が全然違うのです。私学は、建学の精神に基づいた伝統と自由な発想のもとで、素晴らしい教育をやってきました。この私学の良き教育をつぶすような政策が出てくることには、反対すべきだと思います。

役員賠償責任保険 の新設

中山 「ランドデザイン答申」では、2040年には18歳人口が88万人になるとあります。今の大学進学率で計算をすれば、1校あたり入学者が約200人少なくなる計算です。その2000人の影響がどこに出てくるかといえば、間違いなく地方の

大学になると思います。現在でも多くの地方の大学で、定員の未充足問題を抱えているのですから、日本の大学全体の政策と地方の大学の政策を考えると、全く次元が違うのだということを、文部行政には、ぜひ認識してもらいたい。

昨年のケランドデザインや現在議論が進む数学マネジメント等は、そこに全く差を認めない内容になっています。東京の大規模大学も、地方の小規模大学も一律にやれという。これで本当に日本の大学教育は成り立つのでしょうか。ケランドデザインの冒頭、「多様性を尊重されるべき」とある通り、いろいろな学びの場があって、そこでしっかりと人材を育てるという、今日まで培われてきた日本の伝統的教育の中に地域の特異性を是非配慮いただきたいと願っています。

すなわち、国が関与しない「地域連携プラットフォーム」に丸投げするのではなく、また一律に高等教育行政を考えるのではなく、大きな章立てをして「地方の大学を今後どうするのか」について具体的な対策を立ててほしいと思います。全国知事会の中でも、「地方大学の振興と私立大学補助の充実」を要望として出しています。しかし、これに対して政府は反応していません。

都市と地方の経済格差

中山 公立化は総務省の問題であります。全国知事会も地方の私立大学の重要性を謳っていますので、本協会としても総務省に、地方にある私立大学が地域になくてはならない存在であることを認知させることが重要ですね。そして、その私立大学を今後地域においてどう活かしていくかという政策を総務省に求めていくべきだと思います。

大学の規模と 地域は別に考える

中山 知事の中には、私学をしっかりと見ていただいている方もいらっしゃいますね。ただ、地域においては、国立の規模が一番大きいので、国立抜きというわけにはいかないのです。しかし、地方の市町村は、私立大学との連携がなくてはならない存在になっている所も多く、地域貢献は多々大だと思います。

熊本県の場合、「大学コンソーシアム熊本」があります。つくるとき最大の目的は、将来少子化により熊本の私立大学が消滅する可能性がある中で、大学間協力して生き残りを図ろうと、コンソーシアムをつくりました。しかし、私立大学だけでは目的が果たせないと考え、国立の熊本大学、公立の熊本県立大学にも加わっていただきました。

現在、熊本コンソーシアムとして、13の地域貢献の事業を実践しています。このコンソーシアムは全国でも京都に次ぐ規模になっていると思います。



中山峰男氏

中山 評価は高く、コンソーシアムを背景に、それぞれの私立大学でも地域連携をやっています。本学では17の市町村、あるいは県とも包括協定を交わしています。

私大協は、将来希望を 持てる存在に

中山 昨今、定員未充足や経常収支差額の赤字を理由に、私大への支援を切り捨てるような政策が一方的に次々と発表されており、地方の私立大学は大変な危機感を覚えるようになっていきます。

また、各大学とも、18歳人口の減少が進む中、生き残りを懸けて必死に頑張っておられますが、1大学ではどうにも対処できなくなっているのが現状だと思います。やはり、頼れるのは本協会であり、全国の会員大学だと思います。今年は是非私大協から政府に対して政策提案ができるようにしたいと思います。

そして、今後「学生の実態調査」のような大学ランキングにつながる施策が出てきたときには、本協会としてボイコットしようではありませんか。

「未来社会への飛翔に寄せて」

日本私立大学協会副会長
崇城大学理事長・学長

中山峰男



新年明けましておめでとございます。

昨年は新天皇陛下のご即位に伴い、元号が令和になりました。新天皇の即位の礼は、新しい未来社会への飛翔を予感させるような輝かしい式典であったと感激いたしました。ま

さに、令和の御代は今後AIやIoT等先端的技術の発展に伴い急激な社会変革を遂げながら未来社会の創出へと移行していくものと思います。ところで、その新時代を切り開く変革者は誰になるのでしょうか。それは間違いなく若い人たちであり、学生たちであると思います。素晴らしい未来の創出へ向かって、若者一人ひとりが参画して

いくこととなります。我々は、そのような先駆的若者をしっかりと育成していかなければなりません。それがこれからの大学の大きな使命になると思います。新しい何かを創造することになりますので、そこには学生の個性や感性を大切にしたい、またワクワクするような夢や目的を持たせることが肝要だと思います。時代が変革を遂げるとき、成功の方

程式はありません。未知の世界に挑戦する勇氣こそが重要であります。明治維新は若き志士たちによって成就されました。世の中の価値観が大きく変わるとき、新しい価値観をつくるのは常に若い人たちであります。

各大学におかれましてはこれまで建学の精神に基づく立派な教育を実践してこられたが、その教育の蓄積こそが新時代を切り開く若き挑戦者の育成に不可欠な礎石になると思います。それは学生一人ひとりの個性に合った成長のための教育実践であり、人間力を

身に着けさせるための長年のノウハウでもあります。そして、何より大切なのは建学の精神に籠められた学生への想いではないでしょうか。この私学の建学の精神こそが新時代の扉を開く鍵になると信じております。ちなみに明治維新を創成したのは地方の私塾で育った若者たちでありました。

最後になりますが、どうか今年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたしますとともに加盟各大学のますますのご発展を祈念申し上げます。